

4-192728

Cited Reference No.6 in PCT/IPEA/408 and 409

Laid-open Patent Application No. 4-192728 laid open on July 10, 1992

Patent Application No. 2-324486 filed on November 26, 1990

Applicant: Murata Kikai Kabushiki Kaisha

Inventor: T. FUKUI

Title: Portable Wireless Telephone Set

Claim:

1. A portable wireless telephone set provided with:  
memory means 7 for storing the telephone number registered of each of a desired number of systems or other system identification information;

present point determination means 8 for determining under control of which system the present point is by comparing the system identification information transmitted from a base station having the strongest receiving signal with the system identification information stored in said memory means 7; and

set means 9 for reading the telephone number or other information registered in the system determined by said present point determination means 8 and setting the read information as the telephone number or other information for present use.

Column 4, lines 6-7

Therefore, the telephone number is automatically changed to the appropriate one.

しかしながら従来の携帯無線電話機では、電話番号の切り換えを使用者がキー操作等により行う必要があるので、操作が面倒であり、切り換えを忘れたら間違えたりすることがあった。

問題を解決するための手段

本発明は、所望のシステム内の各システム毎に登録されている電話番号や各システム固有の情報等を記憶する記憶手段と、前記所望のシステムのうち受信信号の最も強い基地局からのシステム固有の情報と前記記憶手段に記憶されているシステム固有の情報とを比較して現在いずれのシステム内の所轄地域に居るのか判断する現在地判断手段と、この現在地判断手段により判断されたシステムに登録されている電話番号等を前記記憶手段から読み出して現在使用するべき電話番号等として設定する設定手段とを設けたことを特徴としている。

作 用

本発明においては、現在地判断手段が、所望のシステムのうち受信信号の最も強い基地局からのシステム固有の情報と記憶手段に記憶されている

⑨ 日本国特許庁(JP) ⑩ 特許出願公開  
⑪ 公開特許公報(A) 平4-192728

⑫ 公開 平成4年(1992)7月10日

⑬ 特許請求の範囲

⑭ 特許請求の範囲

⑮ 特許請求の範囲

⑯ 特許請求の範囲

① 発明の名称 携帯無線電話機

② 特 願 平2-324486

③ 出 願 平2(1990)11月26日

④ 発 明 者 福 井 知 史 京都府京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機械株式会社

社本社工場内

⑤ 出 願 人 村田機械株式会社 京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

⑥ 代 理 人 井理士 中島 司朗

明 細 書

従来の技術

例えば外国等においては、携帯無線電話機のシステムが複数存在し、電話番号を登録しているシステム内の所轄地域外で携帯無線電話機を使用すると、ローミング(Roaming)と称して付加料金が加算され、通話料が高くなる。このため、例えばロサンゼルスとシカゴとの3都市を縦断に行き来する人の場合、ロサンゼルスとシカゴとの間に電話料金を登録してシカゴとシカゴとにだけ使用するローミング料金を支払うよりも、ロサンゼルスとシカゴとの各システムに各々電話番号を登録し、使用時に地域に応じて電話番号を切り換えて使用する方が通話料を削減できることがある。

このため従来の一部の携帯無線電話機は、所望のシステムに登録した複数の電話番号等を記憶し、それらを切り換えて使用する機能を有しているが、電話番号等の切り換えは使用者がキー操作等により行っていた。

発明が解決しようとする課題

1. 発明の名称

携帯無線電話機

2. 特許請求の範囲

(1) 所望のシステム内の各システム毎に登録されている電話番号や各システム固有の情報等を記憶する記憶手段と、前記所望のシステムのうち受信信号の最も強い基地局からのシステム固有の情報と前記記憶手段に記憶されているシステム固有の情報とを比較して現在いずれのシステム内の所轄地域に居るのか判断する現在地判断手段と、この現在地判断手段により判断されたシステムに登録されている電話番号等を前記記憶手段から読み出して現在使用するべき電話番号等として設定する設定手段とを設けたことを特徴とする携帯無線電話機。

3. 発明の詳細な説明

図面上の利用分記

本発明は、自己の電話番号として複数の電話番号を登録可能な携帯無線電話機に関するものである。

システム固有の情報とを比較して現在いずれのシステム内の所轄地域に居るのか判断する。そして設定手段が、現在地判断手段により判断されたシステムに登録されている電話番号等を記憶手段から読み出して現在使用するべき電話番号等として設定する。よって、自動的に適正な電話番号の切り換えが行われることとなる。

実 施 例

以下、本発明の一実施例を第1図～第3図に基づいて説明する。

第1図は本発明の一実施例における携帯無線電話機の要部構成図で、マイクロコンピュータのCPU等からなる制御部1には、ROM等からなるプログラム等を記憶する記憶部2や、複数のスイッチ等からなる各種の操作を行うための操作部3や、システムとの間で電報を送受する送受信部4や、通話のための音声スピーカ5および受話部6等が接続されている。記憶部2の内部には、EEPROMからなり所望のシステムの各システム毎に登録されている電話番号や、

システムが判断でき、現在いずれのシステム内の所轄地域に居るのか判断する。そして、設定手段9は、そのシステムに登録されている電話番号等を、現在使用するべき電話番号等として設定する。この状態で携帯無線電話機を使用すると、電話番号等を登録しているシステム内の所轄地域内における使用になり、ローミング料金を支払う必要がない。

上記のように動作を実現するための制御部1の動作の概略について、第2図(A)(B)のフローチャート参照しながら説明する。先ず、ステップ1で記憶手段7の最初の番地に記憶されている電話番号等のデータを設定手段9により設定させ、その最先システムすなわち所望のシステムか、所望のシステムかを選択し、フラグを「1」にする。次にステップ2に進んで、現在選択されているシステムの制御部1で受信信号強度の強い2つのチャンネルを選択し、最も強いチャンネルに合わせる。次にステップ3に進んで、3番番地に設定されたタイマーをスタートさせる。次にステップ4に進んで、タイマーがタイムアップ

アしているか否かを判断し、タイムアップしていなければステップ5に進んで、システムからOHHMを受信したか否かを判断する。OHHMを受信していればステップ6に進んで、受信したOHHM中のS1Dと現在設定されている電話番号等のデータ中のS1Dとが一致しているか否かを判断し、一致していればこのルーチンを終了する。ステップ6において受信したOHHM中のS1Dと現在設定されている電話番号等のデータ中のS1Dとが一致していなければステップ7に進んで、記憶手段7に別の電話番号等のデータを記憶しているか否かを判断し、記憶していればステップ8に進んで、記憶手段7の次の番地に記憶している電話番号等のデータを設定手段9により設定させ、ステップ6に戻る。ステップ7において記憶手段7に別の電話番号等のデータを記憶していないと判断すればステップ9に進んで、現在選択されている電話番号が記憶手段7の最初の番地に記憶している電話番号等のデータに対しては優先システムであるか否かを判断し、対応していないればステップ1

チャンネルに合わせていないと判断すればステッ  
プ12に進む。

このように、予め電話番号等を登録している所  
置のシステムのうち、受信機位置の最も強い  
システムとなつて現在存在している地域を所轄地  
域とするシステムを判断し、そのシステムに登録  
されている電話番号等を自動的に決定できるので、  
着信の地域を移動する際に電話番号等を切り換へる  
手数がからず、しかも切り換へを忘れたり誤作  
を間違へたりしてローミング料金を支払うような  
事態を未然に防止してゐる。

### 發明の効果

以上説明したように本発明によれば、所望のシステム内の各システム毎に登録されている電話番号や各システム固有の識別番号を記憶する記憶手段と、前記所望のシステム上の任意番号の最も強い記憶地帯からシステム固有の電話番号と前記記憶手段に記憶されているシステム固有の識別番号とを比較して現在いずれのシステム内に接続しているのか判断する現在地判断手段と、この現在地判断手段

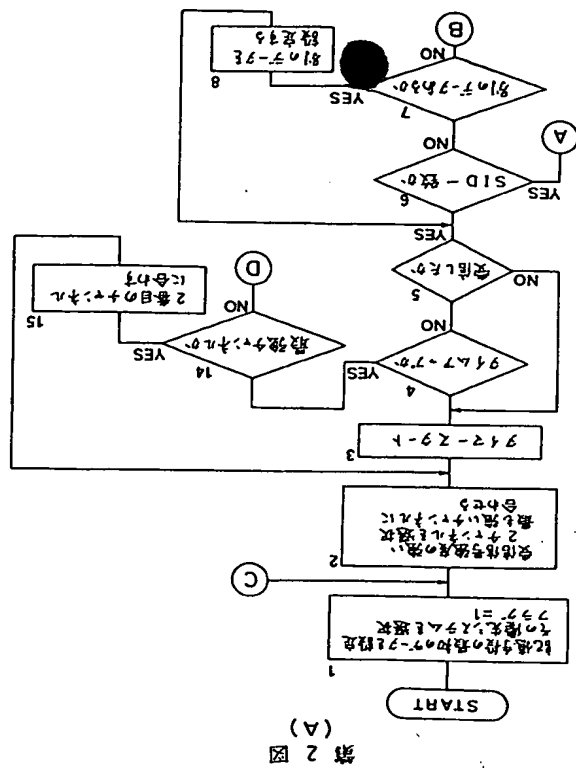
0に進んで、フラグが「0」であるかを判断する。フラグが「0」でなければステップ11に進んで、フラグを「0」にする。次にステップ12に進んで、システムを選択をA、B選んで、ステップ2に戻る。ステップ13においてフラグが「0」であるならばステップ15に進んで、記憶手段7の最初の手帳に記憶している電話番号等のデータを設定手段9により設定する。このルーチンを終了する。ステップ9において現在選択されているシステムが記憶手段7の最初の手帳に記憶している電話番号等のデータに対応した優先システムでないと判断すればステップ12に進む。ステップ5においてシステムからのO/Mを受信していないと判断すればステップ4に戻る。ステップ4においてタイマーがタイムアップしているかと判断すればステップ14に進んで、最も番号狭度の強いチャネルに合わせると判断し、合致していない場合はステップ15に進んで、2番目に強いチャネルに合わせると判断し、合致していない場合はチャネルに合わせ、ステップ3に戻る。ステップ14において最も番号狭度の強い

て、電話手動を前記記憶手段から読み出して現在使用すべき電話番号として設定する設定手段とを設けたので、予め電話番号を登録している所謂登録システムのうち、受信は知度の最も強い基地局のシステムと判断し、そのシステムに登録している電話番号を自動的に電話番号とする。したがって、他の基地局に移動する毎に電話番号を切り換える必要がなくなり、しかも切欠損失を忘れたような手動を未然に防止できるといふ優れた効果を奏する。

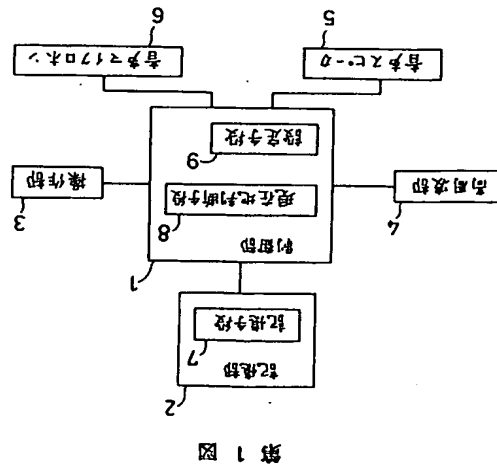
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例における振動無感化回路の要部構成図、第2図は初期部の動作の略を示すフローチャートである。

7 ……記憶手段、8 ……現在地判斷手段、9 ……設定手段。



第 2 図 (A)



第 1 圖

第 2 図  
(B)

